

■第1回アイヌアートモニュメント設置検討会議の概要（2012.12.20開催）

【委員構成】

- 阿部 一司 社団法人北海道アイヌ協会札幌支部 支部長
- 北原 次郎太 北海道大学アイヌ・先住民研究センター 准教授
- 中原 宏 札幌市立大学デザイン学部教授
- 水田 順子 北海道立近代美術館学芸副館長
- 阿部 大 市民生活部長

【意見概要】

- ・アイヌ民族はもういないという理解の人々がまだ多い状況にあり、アイヌ民族を象徴することが、過去のことでなく、アイヌ民族が今も存在し、これからみんなと共生していくのだということを知ってもらうことが一番大切。
- ・アイヌ民族の若者の意見をしっかり聞いてもらいたい。
- ・これから若い世代がどんどん伸びていくので、未来に向かって眺めていくという観点から、ある程度抽象的な要素を入れ、そのモニュメントが見る人に対し、考えさせるところがあってもいい。
- ・動物たちは、アイヌ民族にとって大事な神々である。できれば、自然とか動物という要素は入れるべき
- ・設置場所の空間とモニュメントとのバランスの重要性、モニュメント周辺の整備にも配慮する必要がある。
- ・一例としてイクパスイという儀礼具をモチーフにして制作することの意義や具象的なブロンズの人物像等は分かりやすさがある。

アイヌアートモニュメント事業スキーム（案）

